

東京都台東区は今年度から、ものづくり産業に光を当てて地域活性化をめざす「台東区産業振興プラン」をスタートさせ、注目されている。推進役を担ってきた区議会公明党（清水恒一郎

台東区

幹事長）はこのほど、若手クリエーターを支援する「台東デザイナーズビレッジ」（通称＝デザビレ、2004年創設）などを視察。同プランの成果や今後の課題を探った。

「産業振興プラン」がスタート



「台東デザイナーズビレッジ」で、若手クリエーターと懇談する区議会公明党のメンバー（向こう側5人）

次代の担い手を育成
くりりが街の活力源になつてきた。しかし、安価な海外製品の流入や後継者不足などが原因で、ものづくり産業の規模は縮小を余儀なくされている。こうした現状を開拓するため、今年3月に策定された「台東区産業振興プラン」は、「次代を支える担い手づくり」など5つの施策方針に沿った61の事業を、5年間で実施することを明記。ものづくり企業への就職を支援する「ものづくり人材就職支援」や、商

「ものづくりをしたい人にとって、台東区はとても魅力的な街」――。
同区に集まる若手クリエーターたちは口をそろえ

台東区は古くから、かばんや靴、アクセサリーなど多種多様な「ものづ

次代の担い手を育成

くりりが街の活力源になつてきた。しかし、安価な海外製品の流入や後継者不足などが原因で、ものづくり産業の規模は縮小を余儀なくされている。こうした現状を開拓するため、今年3月に策定された「台東区産業振興

プラン」は、「次代を支える担い手づくり」など5つの施策方針に沿った61の事業を、5年間で実施することを明記。ものづくり企業への就職を支援する「ものづくり人材就職支援」や、商

ものづくりで地域活性化

店街の空き店舗で開業する企業に対し補助金を交付する「商店街空き店舗活用支援」などが、新規事業として盛り込まれた。

同プランの支援を受けているデザビレで区議会公明党のメンバーは、鈴木淳マネジャーと一緒に交換した。鈴木マネジャーは、デザビレがこれまで42組の卒業生を輩出し、うち20組が卒業後も区内に残って活動していることを紹介。雑誌などにも数多く取り上げられ、昨年度の入居募集5室に対して54社の申し込みが殺到するなど、注目を集めている様子について語った。

一行はその後、デザビレの卒業生が区内で経営するアクセサリーショップを訪問。「台東区の助成事業は本当にありがたい」との喜びの声を聞き、支援事業が一定の成果を挙げていることを確認した。

空き店舗活用など61事業実施

また、卒業生が中心となつて地元企業や商店街を巻き込んだ企画、ものづくり体験マーケット「モノマチ」が好評を博すなど、地域活性化の担

清水幹事長は「今回の現地調査で見えた課題の解決をめざし、利用者の視点に立った支援を全力で推進していく」と語っていた。

推進役の公明が現地視察